



文は信なり

日本クリスチャン・ペンクラブ（略称JCP）発行・責任者 池田勇人
事務局 〒131-0043 東京都墨田区立花4-6-13 三浦喜代子方
TEL&FAX 03-3616-8621 郵便振替 00170-0-161838
ホームページアドレス・<http://jcp.daa.jp>

小さい秋のヒミツ

理事長 池田勇人

季節のアキを、なぜ秋というのか。それは穀物が豊かに熟して、食べるのに飽きるほどの収穫になるから。また植物の葉が赤くなるから、とも言われています。この季節に商品を仕入れる者を秋人（あきひと）と言い、商人（あきんど）の語源となりました。商いもここから出ています。

さて、『小さい秋みつけた』（詞・佐藤ハチロー 曲・中田善直）は秋の曲の定番のようになっていますが、「小さな秋」の表現には誤解が多いようです。「小さな秋」とは初秋のことではなく、「ハチローが我が家で見つけた、自分だけの秋」（読売新聞文化部『唱歌・童謡ものがたり』岩波書店）とのこと。

〈だれかさんが：小さい秋みつけた：むかしの 風見の鳥の ぼやけたときかにはぜの葉ひとつ はぜの葉赤くて 入日色 小さい秋：みつけた〉この3節を、本当は1節にしたかったのだそうです。それほど自分と母の思い出が、最後の節に込められているということでしょう。

彼がフトンに腹這いになってペンを握っている、四角く区切られた青い空の中に目かくしオニゴッコの声や百舌の甲高い鳴き声が吸い取られてゆく。赤いはぜの葉陰

も風に揺れ、すりガラスに写って、昔母に背負われて行った教会のステンドグラスも想い出されてきた。そういえば教会の屋根には、風見の鶏がクルクル風に回されて、目がまわっているにちがいないのだが、いつまでも元気だった。

ハチローは3歳の時、腰から下を大やけどをし、それから母に背負われて教会や小学校に通います。彼が十四歳の時、夫の身持ちの悪さから、三十七歳の母は故郷仙台へ。そして四十一歳の若さで病死してしまいます。

〈うつろな目の色 とかしたミルク〉の2節の意味は、帰らぬ夫を待つ妻の寂し気な眼差しのことです。

ハチローの詩は「みんなウソっぱち」と、『血脈』（佐藤愛子 文芸春秋）の中で酷評されていますが、放蕩息子であった彼の心の中にも、母の真実の愛は脈打っていたと思うのです。その母への応答が、詩集『おかあさん』でした。

「紙は白 白は雲 雲はわたしの母のふるさと みちのくの雪をうずめるもの わたしの文字は その雪を汚す足跡 母よゆるしたまえ 許したまえ」

（紙は白）

美しい声で讚美歌を歌う母だったとのことです。

関西との合同夏期研修会

坂口良彬

「文章一日研修会を開いてはどうか」と、会員の植田とも子さんから提案があった。名古屋市の中心にあるYWCAへ足を運び、部屋を借りる交渉をするなど動いているうちに、関西ブロックから、「合同でしませんか」呼びかけがあった。四月の例会に出席した後、京都へ行って事務局同士の打ち合わせをした。

六月の例会で参加を決定した後、プログラム作りを始めた。玉木師が体調不良で参加されないことが決まったため、私の責任は重かった。急に暑くなり、プログラム作りは辛かったが、小川恵子さんの努力により完成した。

中部からは宿泊二名日帰り二名の四名が参加し、関西とともに、総勢二十二名となった。

主題は「書く意味と志」。開会礼拝の後、大田正紀先生の主題講演があった。中部では、日常の例会等で講演を聞く機会がないため、非常にプラスとなった。

午後からは、今関信子先生の講演の後、自己紹介と、日帰りの人を中心として作品講評があった。

中部の参加者は、忌憚のないご指摘をいただいで、貴重な勉強をすることができたと思う。

夜の部では、久保田暁一先生、翌日には、奥村直彦先生の講演の後、宿泊した中部の二人に作品講評をしていただいた。

二日目の午後の部では、中部の水谷節子さんが司会を勤め、私は証しをする時間を与えられた。

二十歳の時に、学生運動の渦の中でうつ病で倒れ、佐藤陽二先生の牛込キリスト教会に導かれて二十四歳で受洗した。名古屋鉄道に入社し一時教会を離れていたが先生の忠告もあり教会へ戻った。発病してから五十年、無事定年。服用中の薬から解放されれば全快となることを証しした。

関西と中部の合同研修会は、新しい試みである。主のみにかない成功裡に終わった。京都見物に連れて行ってくださった中島香代さんに、心から感謝したい。

文書伝道のバトンを握り直す

藤本 優子

日本では数少ないクリスチャンの中で、文書伝道を志す者もまたごく少数である。その一人に召しを受け、昨秋の五五周年の集いに続いて今夏の関西・中部合同研修会でも計り知れない恵みを賜った。

いのちの言葉を紡いでいく者たちが、教派を越えて一致して学び合う恵みの座で、文書伝道への使命感を強くされ、新たななる意欲と情熱が体内に充滿した。

日本クリスチャンペンクラブの存在と活動を、全国の教会に周知させたい。会員たちがまず自分の教会に配布し、また、キリスト教書店に配置して頂くなどの広報活動が必要ではないだろうか。

今ではインターネットが普及定着し、情報が頭の上を飛び交っている。しかしながら、私たちが書くものは、深く心に届けたものである。

研修会最後の集会では私自身の歩みについて、火花の如く一瞬にして啓示されたことがあった。お二人のお証しが私の魂を揺さぶったのだ。

「私が召された後も、神を求めた人たちのために文章を書いて残すことに専念していきたい」。

「イエスさまに出会わなければ今の私はなかった。このイエスさまのことを書かずには死ねないと思うている」。

最近ペンが重いのは、私の書く姿勢が不徹底だったからだ。主と共に歩んできた道を書くことは、神が私にして下さったことを伝えるためだ。単なる自分史ではなく、福音を知らない人たちに伝えんがために書くということだった。

形には表れないほど微妙なズレであったが、座標軸が寸分の狂いもなく正されたことがわかった。それは、「わが生涯がキリストの作品として与えられていること」を再確認させられた瞬間でもあった。

しかも、私たちが書く個人の証しは時代の証人でもあり、私たちはキリストからバトンを託されたのである。こうして私は、文書伝道のバトンを強く握り直したのであった。

JCP 関西・中部合同夏期研修会

小川 恵子

八月の暑い最中、二日間にわたって関西・中部合同夏期研修会が行われました。日帰り九名、泊まり14名、合計23名の参加者が与えられ、恵まれた時を過ごしました。会場の関西セミナーハウスは京都比叡山の麓にあり、標高200mで豊かな緑に囲まれた静かな環境です。都会は猛暑なのに、ひぐらし蝉が鳴いて秋の気配を感じさせられました。

プログラムは下記の通りですが、開会礼拝、休憩のあと主題講演。島尾敏雄の作品『死の棘』を中心に大田正紀先生に語って頂きました。午後は、今関信子先生の「いま、ここに生きる」、夜は久保田暁一先生の「自伝の書き方」と、それぞれに有意義な講演。その間に三人の会員の証、また自己紹介と、それぞれの「書く意味と証」を語って頂きました。夜は祈禱会で締めくくりました。

二日目は早天礼拝、曼殊院見学。奥村先生による「キリスト教文学」の講演。午後から証の後、閉会礼拝。その後見学と話し合いのグループに分かれました。

かなりハードな企画でしたが、それだけに内容の濃いものとなり、満たされて、文書伝道への思いを胸に熱くして、主に感謝しつつ山を下りました。

2008年度 JCP 関西・中部合同夏期研修会プログラム

主題：「書く意味と志」

8月7日(木)

午前の部

		司会	原田	潔	兄
10:15	開会礼拝				
	讃美歌	191	—	同	
	聖書	エフェソ2:14~22	司	会	
	祈禱		司	会	
	説教	「平和の福音を告げ知らせ」	奥村	直彦	牧師
	祈禱		奥村	直彦	牧師
	頌栄	541(父、み子、みたまの)	—	同	
	開会挨拶		久保田暁一		先生
	休憩				
11:00	主題講演	「書く意味と志」	大田	正紀	先生
11:50	写真撮影		担当	長原	武夫 兄
12:00	昼食		食前祈禱	合田	洋子 姉

午後の部

		司会	坂口	良彬	兄
13:00	講演	「いま、ここに生きる」	今関	信子	先生
14:00	証し	私の「書く意味と志」	小林	桂子	姉
30	話し合い	自己紹介と主題テーマについて	—	同	
15:00頃より		ティータイム(話し合いの中で)			
40		チェックイン			
16:00	証し	私にとって書くことは	小川	恵子	姉

(プログラム 続き)

17:30 支部の現状 中部ブロック 坂口 良彬 兄
 関西ブロック 前山 英子 姉
 18:00 夕食 食前祈祷 三杉 富子 姉
 日帰りの方 帰路に

夜の部 司会 藤本 優子 姉
 19:00 証し 「伝道 長原 武夫 兄
 19:30 講演 「自伝の書き方」 久保田暁一 先生
 20:30 祈祷会 ー 同
 21:00 就寝

8月8日(金)

午前の部

7:40 早天礼拝 司会 中島 香代 姉
 讃美歌 30 ー 同
 聖書 コロサイ3:12~14 司会
 祈祷 司会
 奨励 「ゆたかなかけ橋に」 中路 治代 先生
 祈祷 中路 治代 先生
 頌栄 543 (主イエスのめぐみよ) ー 同
 8:00 朝食 食前祈祷 坂口 良彬 兄
 9:00 曼殊院見学
 9:50 チェックアウト
 10:00 講演 「キリスト教文学」
 ー島崎藤村をめぐってー 奥村 直彦 牧師
 11:00 相互講評 グループ別又は全員
 12:00 昼食 食前祈祷 中島 香代 姉

午後の部

司会 水谷 節子 姉
 13:00 証し 坂口 良彬 兄
 30 閉会礼拝
 讃美歌 ガリラヤの風かおる丘で ー 同
 聖書 IIペテロ1:1~11 司会
 祈祷 司会
 説教 「神のすばらしい約束」 松本 瑞江 姉
 祈祷 541 (父、み子、みたまの) 松本 瑞江 姉
 頌栄 ー 同
 14:00 2グループに分かれる
 Aグループ 京都見学
 Bグループ 語り合い「文書伝道への思い」 ティータイムほか
 17:00 解散

関東ブロック研修会報告

寄居の空 駒田 隆

こういう空を、旻天（びんでん）というのでしょうか。秋の澄みきつた大空の下、埼玉県寄居町で、関東ブロックは、埼玉のキリスト者について学び、「あかし文章」を巡るいろいろな問題を語り合いました。

埼玉県出身者に、荻野吟子（日本最初の女医、遠山元一（日興証券元会長）という二人のキリスト者の存在を改めて知らされ、隠れキリシタンの昔から蒔かれていた、キリストの福音が、実を結んでいたことを知りました。その時に花は咲かなくても、稲は成長し、花を咲かせました。そんな思いを、学びの中で知ることが出来たのは幸いでした。

「あかし文章」もまた、技術論はモチロンのこと、その人その人に蒔かれた福音の種が成長して、今、そのお返しをしていることを感じました。

受けるよりも、与えることが幸いであることが、あかし文章を書くことによって生かされていたのです。まだまだわたしたちのあかし文章は未熟ですが、一歩ずつ前へ向かって歩いていきます。そんな思いを、この集いで得たのです。道は遠いかもしれませんが、一所懸命育てていけば、福音の種は花を咲かせ、次の種が蒔かれて行くことで

しょう。しかも仲間が手を取り合っているのですから、これほど力強いことはありません。

わたしたち自身が、キリストの福音のあかしであることを、そのまま伝えれば、一番のあかしになります。弱かったわたしたちが、キリストによって生まれ変わったことが、そのままあかしになるのです。言い換えれば、あかし文章はわたしたち自身でもあります。

伝えましょう、わたし自身があかしであることを。何も難しいことはありません。わたしたちが、わたしを書くことによって、あかし文章は生まれます。そんなことを、この集いで学ぶことが出来ました。どうぞ、ご期待ください。次のあかしに向かつて、私たちは書き始めています。

ひたむきに書き続ける

長谷川和子

高崎線熊谷から秩父線に乗り換えて寄居へ。迎えるバスで小高い山の上の「かんぼの宿」に着いた。秩父山地が眼前に迫り、見下ろすと荒川の流れがあった。自然豊かな場所で二日間学ぶ機会が与えられた。開会礼拝では、池田先生の「夕暮れ時の聖務（イザヤ46）」のメッセージ。出席者は23名。4名の新人参加者があり、「主の導きに他ならない」と感謝しあった。運営委員会では「埼玉県のキリスト者を

学ぼう」と決めていた。

駒田兄より徳川幕府時代にキリスト教の伝道が広まり、キリシタンの弾圧で児玉郡では処刑された者もあり、歴史から多く教えられた。

山本兄からは熊谷市出身の荻野吟子氏について、女医の道が閉ざされていた明治時代、「女医一号」になるまでの苦難をキリスト者として乗り越えた。志し高く前進する生き方に感銘を受けた。

西山姉は遠山元一氏（日興証券の創立者）について。比企郡川島町の豪農に生まれた遠山氏は生家没落後一五歳で兜町で丁稚として働き、二四歳で母と妹と共に受洗、苦難の末に生家の再建を果たした。その見事な建物は現在遠山記念館として一般に公開されている。

文章論では池田先生より「あかし文章の書き方」について、また三浦姉からは「聖書から学ぶあかし文章」の講話があった。

あかし文章を書き続けてきた私たちは原点到立ちかえり、故満江師のことば「文は信なり」をかみしめ「私とあかし文章」の主題で原稿を持参した。三グループに分かれ、お互いの文章を読み、忌憚なく言い合った。どのグループでも熱心に活発に言葉が飛び交い、これぞ「ペンクラブの群れだ」と思った。最後に池田先生から個々の文章についての確かつ優しい批評をいただいた。「恵まれた学びの時であった」との声に主

のお守りと感謝した。参加者全員の協力を
得て皆で作りに上げた「オータム・ジョイフ
ル」であった。

2008年9月8日～9日 JCP関東 オータム・ジョイフル
初秋の一泊研修会(かんぽ寄居の宿で)
主題『私とあかし文章』プログラム

☀8日

◎11時半～12時

開会礼拝 『夕暮れ時の聖務』池田勇人師 司会 浅見鶴蔵兄

◎オリエンテーション 三浦喜代子姉

◎1時～3時 集会その1 集会担当 山本披露武兄
埼玉県のキリスト者 その1 駒田 隆兄
文章の書き方 池田勇人師

◎4時半～6時 集会その2 集会担当 島田 裕子姉
埼玉県のキリスト者 その2 山本披露武兄
聖書から学ぶあかし文章 三浦喜代子姉

◎7時半～9時 集会その3 集会担当 長谷川和子姉
埼玉県のキリスト者 その3 西山純子姉
私とあかし文章 グループでの作品合評 その1

☀9日

◎9時～10時半 集会その4 集会担当 西山純子姉
私とあかし文章 グループでの合評その2
あかし文章総括 池田勇人師

◎11時半～12時

閉会礼拝 池田勇人師 司会 駒田 隆兄

以上でした。

各ブロックの予定

関西ブロック

*十月十一日(土)

例会 大津教会

*十一月下旬または十二月上旬

例会予定

*十二月二十日『関西ペンの声』

No.15 発行予定

中部ブロック

*九月十四日

『屋根』ワード化完了・印刷

*十月十八日 例会作品講評

『屋根』二〇〇八年度作成

業・完成を目指す。

関東ブロック

*十月四日(土) 例会

「私と遺言」・ゴスペル

*十月二十五日(土)

詩歌・童話とエッセーの会

*十一月二十二日(土)

クリスマス礼拝&祝会

ページェント・ミニコンサート

後記・今号は期せずして研修会報告一色
になりました。それも同じ主題で。JCP
Pに臨む主の確かな導きを覚えます。各
ブロックのいつそうの発展を祈ります。
(K・M)